

## 平成27年度 岐阜県立東濃高等学校「学校評価アンケート」の結果

### 【アンケート結果の表記方法】

- ①生徒：肯定的な回答 A 及び B と否定的な回答 C と D が 50%以上、わからないの回答 E が 25%以上を網掛けで示した。
- ②保護者等：肯定的な回答 2/3 以上（67%）と、否定的な回答 C 及び D 1/3（33%）以上、わからないの回答 E が 1/4（25%）以上を網掛けで示した。

#### 1 アンケート結果より（生徒）

全体的には各評価項目に対して、A「よくあてはまる」B「ややあてはまる」と肯定的な回答をした生徒が多くいた。評価項目が全部で 38 あったが、うち 35 項目で A と B の肯定的な回答が 50%得られた。

26 年度と 27 年度の集計結果を比較すると次のような成果と課題が考えられる。

〈課題〉

#### ●評価項目 (3)「楽しく学校に通っている」(H27 A と B 58% H26 A と B88%)

26 年度と比較すると全体でポイントが大きく下がっている。学年で見ると 3 年生は肯定的に回答している生徒が多いが、1 年生、2 年生で C と D で回答した生徒が多くなり全体には、ポイントが下がった。

1 年生は、新しい環境の中で自己表現が苦手な仲間との人間関係でのトラブルや、学習面での困り感などから、否定的な回答になった生徒が多くなったと考える。2 年生は中堅学年として、特に生活面や学習面での緊張感が薄れ、中だるみの状態になったことが否定的な回答につながったと考える。

仲間との関わり方、自己表現力の向上、学習での困り感、教育相談など、生徒が安心して学校に登校できる環境づくりに今後も全職員で努めたい。

#### ●評価項目 (8)「本校は保護者の悩みや相談に適切に対応してくれる」(A と B42%)

A と B の回答が 42%であったが、E「わからない」と回答した生徒が 30%と多いことから生徒にとっては保護者に対する学校の対応についてよく分からないというのが本音であると考える。年 2 回の三者懇談はもちろんであるが、常日頃から保護者との信頼関係づくりに全職員をあげて取り組んでいく。

#### ●評価項目 (28)「本校では、部活動が活発に行われている」(A と B39%)

昨年度もこの評価項目の A と B が 48%と低い回答であった。1 年生の段階では入学して 9 月までは必ずどこかの部に所属することになっている。9 月以降にやめてしまう生徒や所属していても積極的に参加できない生徒、また、何も所属しない生徒も多い。

中学時代 3 年間続けてきた種目を高校でも継続して取り組んでいくという強い意志をもって活動する生徒が少ないのが現状である。文化系の部活動に逃げてしまう傾向もみられる。こうした実態については生徒も自覚していることがこの評価ポイントとなっている。

しかし、こうした実態の中でも少数で大会に単独でエントリーできなくても毎日、熱心に練習に取り組み成果をあげている部もある。

今後も強い意志をもち、継続してコツコツと取り組む生徒の姿が多く見られるように、認め、褒める、方向を示すなど情熱をもって生徒の指導援助に努めたい。

そして、そのことが学校全体に活力をつけていくことにつながっていくと考える。

〈成果〉

#### ○評価項目 (37)「本校は、登下校におけるマナー指導（電車の乗り方・駅での態度等）に取り組んでいる」(H27A と B56% H26 A と B46%)

職員による駅での登校・下校指導や電車に乗車しての指導を継続して実施してきた。そうした指導もあり、周りの方への迷惑行為も減った。このことは生徒も感じていることだと考える。

「地域の中で見守られて登下校している」という意識を今後も生徒に持たせる指導援助に努めたい。

○評価項目 (21)「本校は、体罰の防止に努めている」(H27A と B69% H26A と B57%)

生徒へのより適切な支援のための職員研修を実施し、全職員で共通理解を図り指導援助に努めてきた。また、定期的に教育相談・発達障がい連絡会を実施し気になる生徒の交流やスクールカウンセラーからの助言など、生徒の実態把握に努めて対応してきたことで適切な生徒への関わり方ができていると考える。

2 アンケート結果より (保護者)

評価項目 39 のうち 3 項目が昨年よりポイントが低くなったが、全体的には肯定的な回答を得られることができ、保護者の方の学校に対する理解を感じられる結果となった。

〈課題〉

●評価項目 (6)「学校からの連絡文章等は、保護者(地域)に確実にとどけられている」(H27A と B86% H26A と B90%)

●評価項目 (11)「すぐメール(一斉配信メールサービス)は有効に活用されている」(H27A と B92% H26A と B93%)

●評価項目 (26)「地震や台風などの場合の対応について、生徒や保護者(地域)に対策マニュアルが知らされている」(H27A と B75% H26A と B84%)

上記の 3 項目は家庭との連携や健康安全に関わる項目である。項目 (26) が昨年に比べて 9 ポイント低くなっている。保護者が来校される機会をとらえて説明したり確実に資料を配布するなどの徹底に努めることと、保護者との連絡を密にして対応していくことが大切であると考ええる。

項目 (6) は、生徒の回答でもポイントが低い項目であった。生徒も配布物を確実に家庭に持ち帰っているという意識は低いようである。

学校から配布されたプリントを確実に家庭に持ち帰るように配布したことをメールで保護者に一斉配信したり心配な生徒には家庭に連絡するなど、見届けを確実にを行うなどの細かな配慮に努めたい。また、学校と保護者との信頼関係づくりに関わる大切なことであるという自覚をもって情報発信をしていきたい。

〈成果〉

○評価項目 (36)「学校は、あいさつ・時間を守る・身なりを整える指導に取り組んでいる」(H27A と B92% H26A と B69%)

4 月より基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上をめざし、「あじみ」(あいさつ、時間、身なり)という言葉の合言葉として取り組んできたことで生徒の意識も高まった。また、PTA あいさつ運動で PTA の方に校門に立っていただき、生徒に声をかけていただいたこともよい評価につながったと考える。

○評価項目 (18)「学校は、高校生としてのマナーや社会規範を身につけさせる指導を行っている」(H27A と B83% H26A と B62%)

○評価項目 (19)「学校は、高校生としてふさわしい服装・頭髪等の指導を行っている」(H27A と

B82% H26A と B63%)

評価項目 (18) (19) とともに生徒指導に関わる評価項目である。昨年に比べてポイントが高くなっている。

本校、生徒指導・特別活動の重点として①道徳心を育む指導の徹底、②全職員共通理解と指導の徹底、③部活動・ボランティア活動の活性化を位置づけている。こうした重点を全職員が具体的に何をすればよいのか共通理解をはかり徹底して指導援助してきたことが少しずつ生徒の姿として表われ、生徒の姿から評価していただけたと考えます。

こうした項目は生徒の姿で評価しやすい項目であることも含め、今後も生徒の姿で勝負できるよう指導援助に努めていきたい。